

3/11地震の影響 ヘルパー事業所緊急アンケート の整理

2011/3/24 現在

1 発信事業所 50所

2 御回答事業所 10所

項目	質問	お 答 え
1 地震発生時について	ヘルプしている時困ったこと	<p>1.電動車椅子などに移乗後であればすぐに避難できるが、まだベッドにいる場合、リフト移乗でしか動けない場合の方などは、すぐ避難できない。</p> <p>2.連絡が取れなかったこと 5</p> <p>3.一人で自宅にいる利用者さんが不安でいても、その対応に人数が足りなかった。 居宅の場合、その場や次の方への訪問の調整がつけられなかった。</p> <p>4.利用者さん宅に戻ったが、ガスが復旧しなくて、少々パニックっていた。自分で外に出られないため、復旧ボタンがおせない。</p> <p>6.地震発生時、利用者が逆に喜んでしまいすぐに避難しようとしなかった。</p> <p>7.排泄介助提供を拒むことは出来ないので、当日は 20:00 からの訪問をした。ヘルパート利用者の安全確保が心配だった。 電話が通じず、全員の安否確認は当日に出来なかった。</p> <p>9.避難したが、利用者が動かなかった。</p>
	とるべきと思う対策	<p>1.ヘルパート事業所間で、すぐにつながる緊急の改選があれば良い。</p> <p>3.職員4名で自宅でお一人の方のところに回れたので、側についている・近所に頼む、などで北が、民生委員などにも回ってもらえるとよい。</p> <p>4.散歩で公園に出ていたのでその場でじっとしていた。</p> <p>5.伝言ダイヤルなどの利用 人員の確保のため、事務所スタッフが自転車で駆け回る。</p> <p>6.かくヘルパーにて、しっかり声掛けをして誘導する。</p> <p>7.室内の家具などの配置と安全策。</p> <p>9.メールは何回かに一回は通じたので有効</p>
2 避難場所、非難情報について	困ったこと	<p>1.関東・東京の被害状況などが全く入って来なかった。 どこに避難すればいいのか分からない。 2 ・障害ある方は、本当にその避難所で安心できるのか。</p> <p>3.電話・携帯がつながらず、こちらがどう対応していいか、対応後の動きや引継ぎがしづらかった。</p> <p>4.利用者さんを避難させるには、おんぶ等しなければならず大変。</p> <p>6.今回は避難場所には行かず、事業所の玄関先で待機する形を取った。</p> <p>7.事前に全員の避難場所を確認していなかった。</p>

	とるべきと思う 対策	<p>1.地域で定期的にアナウンスする。</p> <p>・緊急時に特別に非難できる施設などの情報</p> <p>3.支援が必要な方のホットラインの確保や、全員が認識している避難所を明確にする、指定避難場所に連れて行く。</p> <p>4.いざと言う時のシュミレーションをしておく。</p> <p>5.伝言ダイアルなどの利用</p> <p>事務所スタッフが自転車で駆け回る。</p> <p>7.避難場所の確認</p>
3 利用者の安全 確保について	困ったこと	<p>1.地震が起きてすぐには、他の利用者サービスがあるため、安否確認にはいけない。</p> <p>2.徒歩にて帰宅中、発作が何度かおきました。</p> <p>3.電話が繋がらない、電話に出られない方への安否確認。</p> <p>4.ご家族と連絡がつかず困った。 3</p> <p>ガラスケースが壊れていたためかたずけていたが、その看護利用者様が怖がり動き回った。</p> <p>5.伝言ダイアルなどの利用</p> <p>事務所スタッフが自転車で駆け回る。</p> <p>6.利用者が一名だけだったので問題なく安全確保が出来た。</p> <p>7.一日一週間のスケジュールを把握しておく必要あり。</p> <p>9.ヘルパー自身が激しい揺れに驚きパニックになってしまった。</p> <p>激しい揺れで、利用者の身を守ることで精いっぱいだった。</p>
	とるべきと思う 対策	<p>1.すぐに様子を見に来てくれる方を数人リストアップするなど、緊急連絡体制や民生委員の方、障害者担当の方を明確にする。</p> <p>3.どう機能しているか不明だが、助け合いネットワークとの連携。</p> <p>4.ご利用様が家族に対して「すぐ駆けつけられないところに行く時は、行く場所を知らせておいて欲しい」とお願いしたとのこと。</p> <p>ベッドに座るよう、促した。</p> <p>7. 一日のスケジュールを把握しておくこと。</p> <p>9.利用者の安全のため、安全を確保できる場所への非難。</p> <p>日ごろから避難ルートを確認しておく。</p> <p>10.社員を手配して、利用者の安全確認</p>
4 翌日以降の影 響について	困ったこと	<p>1.すぐに買い物に行くことが出来ないため、ヘルプ時間に買い物にいてもすでに商品がない。</p> <p>3.デイサービスや学校の状況で、予定がどんどん変り追いついていけない。 3</p> <p>電車の影響で、ヘルパーが稼働できない。 2</p> <p>5.通勤するスタッフの時間がかかる。</p> <p>7.精神の方が多いので、動揺がありました。</p> <p>9.外出先がほとんどやっていなくて行き先に困った。</p>

	とるべきと思う対策	<p>1.最低限の食品・オムツやフラットシートなどの排泄用品の備蓄、配給があってもいいと思う。</p> <p>4.代替を立てられるようシフトを組んでおく。</p> <p>6.公共交通機関・余震の状況から利用者に自粛を促した。</p> <p>7.ヘルパーに「安定できるような話や状況に持っていくように」と、個別に指導。</p> <p>9.事業所として災害時の対応を改めて考え、マニュアルを作成する。</p>
5 その他 お気づきのことを何でもどうぞ	困ったこと	<p>1.停電になるとエアマット、リフト、電動車イスは使えなくなるので、本当に停電するかできれば明確にして欲しい。</p> <p>2.連絡が取れなかった。2</p> <p>3.余暇外出をしばらく控えているが、何時を目途にしていいか判断に迷う。</p> <p>5.外出予定利用者の行き先を検討。</p> <p>7.買占めがあると、レジが混雑し、希望の品が手に入らず、時間オーバーや、次のヘルプの時に頼んだりして、いつもと違うサービスの工夫をしなくてはならなかった。 利用者に不安を与えてしまう。</p> <p>9.休館している公共施設が多く行き先に困っている。イベントもかなり中止になっている。</p>
	行なっていること	<p>1.電動車イスは事前に充電するなどしているが、他はどうしようもない。</p> <p>2.園の方も心配をされていると思い直ちに帰園を始める ご本人の体調を確認、こえかけしながら誘導。</p> <p>3.余暇外出は徒歩圏内としている。</p> <p>5.公共交通機関を使わない外出に変更。</p> <p>7.サービスの振り替え変更・内容変更を相談できる方は行なった。 身体介護は通常通り訪問することを伝えた。</p> <p>9.ヘルパー、利用者に災害時の対応について、マニュアルではないが、周知した。</p>
	とるべきと思う対策	<p>1.非常時にバッテリーなどもしもの時にすぐ貸し出してもらえようになればと思う。</p> <p>5.落ち着くまでは出かけたくないが、利用者さんに急な変更は通じにくく、悪い影響も。</p> <p>7.まずは、安心を与えること。次にできる振り替えは願います。</p>

2011年4月14日開催 障害者ヘルパー支援事例検討会記録

<3月11日の地震の影響について>

- ・10事業所から回答が届いた地震影響アンケート結果の報告をもとに意見交換を行った。

<意見内容>

- ・安否確認に時間がかかり、夜11時過ぎになった。
- ・複数の事業所を利用している方がるので、その方へは一つのところが担当してはどうか。
- ・事業所の近くの方には、他事業所利用者でも確認するのもいいのではないか。
- ・学校によっては対応が違っていたので統一してもらいたいと感じた。
「親御さんがくるまで学校で待機させる学校や、交通機関が動いてないにもかかわらず、ヘルパーがくれば、帰るよう促され、結局学校に再度戻ることになる学校があった。」
- ・何社も利用している方もいるため、重複して連絡を入れていたこともあった。事業所間で連携をとって、協力し合うことが必要と感じる。
- ・ヘルパー契約をした際、福祉事務所が緊急時の安否確認はどこが事業所がするのかを振り分けてもらえるといい。
- ・ヘルパーと区が連携する必要がある。
- ・ヘルパー自身の安全やヘルパーの家族の安否や迎え対応の心配もある。
- ・災害時の対応をどこまで希望するか予め家族と話し合い書面に残す必要がある。
例えば「呼吸器をつけて車いすに移乗させたり、おんぶして避難することは難しいが、その場合はどうしたらいいか確認し、ヘルパーの安全を優先することで同意してもらった。」
- ・各地域の避難場所の確認が必要であると感じた。
- ・在宅酸素を使っている方の自宅で、家具が倒れ動けなくなっている人がいた。
- ・安否の確認は、独居の方を優先した。
- ・独居の方と、地震などのとき危ない環境の方の一覧表をつくってあったので、そこに確認を取ったが、それが有効に使えた場合とそうでない場合があった。
- ・車両移動支援の場合、エレベーターが使えないとき、人手で車椅子の上げ下ろしが必要だったが、全員のヘルパーが出来るとはならない場合がある。
- ・無理をしてまで安否確認をする必要があるのか疑問である。
- ・事業所間の連携の場合、安否確認だけではなく、サービス利用の対応も1社で続けて行うことも可能となるのではないかと考えた。(移動手段が滞っている場合は合理的にサービス提供ができる)

- ・地震時の心的ストレスを今も感じている方が多い。和らげるためのメンタルケアが必要。
- ・今はサービス契約していない方から、ガスが止まった時の対応を望む連絡が入った。
- ・施設で、毎月避難訓練をしてきたからと思うが、スムーズな避難が出来ていた。
- ・一人暮らしの方が帰宅したら、電子ロックがかかって、どうしたらいいかとの問合せが入り、自宅へ行った。
- ・人工呼吸器を使用している方の自宅には、訪問診療の医師が全部回ったと聞いた。
- ・ヘルプの業務として、お客さんのための買い物は何点かしていたら、「こういうとき、そんなに

買うのか」と言われ困った。他の方が高齢者がいるのですね、とっていただきほっとした。

- ・転倒防止策をとっていなかった家でのたんすの転倒、それによるガラス割れが多かった。
- ・生活用品不足から、本人は週一回の買い物支援しかないため、それでは揃わないので、役所に事前確認して、ヘルパーが品物を見つけると事前に買っておく対応を2週間とった。
- ・利用されている方からは、安否確認電話をもらえるだけでも安心、と言われた。
- ・ヘルパー事業所はどこまでやるか
- ・電話確認には優先順位が出る（独居高齢者、一人では動けない人、など）
- ・災害時の安否確認の地域分担を、高齢者は地域包括センターが、障害者は福祉事務所が行うことも考えられる。
- ・移動支援と居宅支援の現場対応の違いが分かった。

<地震後、事業所として行なったこと>

- ・災害時連絡シートを活用した。
- ・災害時の対応をヘルパーに周知した。
- ・学校や通所崎の対応が違うので、行った先の指示に従うこととした。移動中などでの地震の場合は、その場の判断とした。
- ・災害時の対応マニュアルを作っていなかったが、今回作った。

<災害時の連絡手段について>

- ・災害伝言ダイヤルやメールは有効的であった。
- ・ツイッターは情報を得るのに有効的ではあるが、嘘の情報もあるので注意が必要。
- ・トランシーバーを準備している生活園もあったが、利用できなかったようである。

<災害時の避難や確認の確認について>

- ・震度5強以上になると、小・中学校と7地域センターに、災害救援所が開設される。
- ・災害時要援助者リストに登録をすると救助してもらえるシステムがある。その方が救援所に来ていない時は、訪問し確認することとなる。
- ・今回、独居高齢者宅へは、後日区の職員が訪問している。
- ・作業療法士に呼吸器をつけている方の対応について確認したところ、揺れている間に避難しようと動かすことは最も危険である。家の中で安全確保することが一番であるとのこと。

グループホーム世話人情報交換会

3 / 24 で出された、地震への対応に関する意見

<順不同>

1. 地震が起きる時間、状況によって対応が異なる。
 - ・それを想定した準備が必要。
<時間帯⇒朝・昼間・夜間・平日・土・日など、状況⇒物が飛散、ガラス製品壊れる、家の一部が破壊など>
 - ・入居者がいた時どうするかを考える必要がある。
 - ・訓練は必要。

2. 夜間、一人では対応できない。
 - ・近所にいるスタッフに駆けつけてもらう
 - ・バックアップ施設をもつが、距離があり、24 時間体制はない
 - ・隣近所の協力を頂ける地域との連携が大切。
 - ・地域防災会に参加し、交流を密接にしていく。
 - ・近くのGHとの協力

3. 本人の行動に関して
 - ・「逃げ出さない方」をどうするか事前に決めておく必要あり。
 - ・留まっていられない人、外出時の確認方法を、本人も極力加わって、話し合い申し合わせを作っておく必要あり。

4. 連絡について
 - ・昼間の作業所と連絡・協力の確認<帰宅や休み、開けて通所させて欲しい方の受止めなど>
 - ・電話・携帯がなくなると緊急時の連絡方法が必要
 - ・家族・ヘルパーとの連絡方法の確認
 - ・企業就労している方が、会社から通常日と同様に返された。地震・震災時の帰宅方法の連絡など確認が必要。
 - ・世話人への法人担当者などからの声かけなど方法が必要、忘れられていないと重い心強かった。

5. 備えるべき物など
 - ・ヘルメット、懐中電灯、ろうそく、ラジオ、ガスのカセットコンロ、転倒具防止器、食器棚扉のストッパー、簡易トイレ、マッチなど火。
 - ・水、インスタント食品、防災グッズや非常食など

巨大地震の影響の緊急アンケートのまとめ

2011/03/24 グループホーム世話人情報交換会

- 1 実施目的 地震の影響は、今の杉並のグループホームでお住まいの方にも出ていると聞いています。この影響を把握し、出来る改善、出来る努力などを共有できるのではないかと考えまして、緊急にアンケートをさせていただきました。
- 2 実施期間 2011年3月16日から22日
- 3 依頼対象 杉並区内40所
- 4 回答数 19所
- 5 質問内容 「現在、困っていること、行っている対応」
- 6 回答のまとめ 3 / 23 現在

項目	質問	お 答 え
1 食材料の確保	困っていること	<ul style="list-style-type: none"> ・主食のコメが、近くのスーパーに全くない、あるいは少ない 8 ・紙おむつ、パットは困った ・物が減って行くので選べない。 ・生鮮食品の不足や偏り。 ・スーパーでの混雑と時間のかかりすぎ。 ・パン・乳製品がないこと ・ラーメン・冷凍食品当の不足
	行っている対応	<ul style="list-style-type: none"> ・発注している ・法人本部から備蓄米が配られた 4 ・気づいたものからほどほどに買う ・調理方法など工夫する。 ・保存できる食品の備蓄 ・週一回の生協で助かっている。 ・ご飯を炊いておにぎりですべてしている ・他の町を捜した ・店やスーパーを周りさがした。8 ・事前のメイン食材を購入していた。
2 健康状態 (入居者、世話人など)	困っていること	<ul style="list-style-type: none"> ・週末、出かける気にならない。 ・いつもの週末の予定と違うので少し混乱 ・(女性) 利用者が恐怖と睡眠不足、どう対応するか 2 ・放射能のこともあり、薬物の購入がやや不安 ・やや疲れ気味
	行っている対応	<ul style="list-style-type: none"> ・あまり遠出をしない ・十分休んでいただく ・世話人は一階の部屋で寝て地震対応に備えている。 ・体を守ることなどの話合いをして、少しでも不安・恐怖感をなくすようにしている。 ・服薬者の通勤カバンに常に薬を入れている ・逃げる場所などを話し合っている。 ・寮母の部屋と一緒に寝ている ・早めに休む
3 利用者の通勤、通所	困っていること	<ul style="list-style-type: none"> ・交通機関の運休など状態が不十分 3 ・作業所の休みの連絡がホームになかった 2 ・作業所が休みになった 複数 ・通所先休業時の日中対応 ・仕事場休み・交通事情休み・どうしても行かなければならないなどで混乱 ・電車が混んで入場規制がかかる ・作業所送迎車のガソリン不足 *計画停電になった場合の朝食作り
	行っている対応	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅から作業所に通ってもらっている。 ・最終の連絡に従っていた。 ・作業所の指示に従っていた。 ・早めの出勤

		<ul style="list-style-type: none"> ・出勤前に「遅れるようだったら会社へ連絡すること」と説明している。 ・安全な通所方法を考えたり、見守りしている。 ・GHメンバーの送迎を作業所の車で対応してもらっている ・GHメンバーに作業所を開けてもらっている ・送迎車は、両方の作業所へ向かう人たちをまとめて移送している。 ・手の空いている作業所スタッフに依頼し対応している。 ・寮に昼間いる人のため弁当を用意。 ・世話人も極力昼間寮にいる 	
4 ガス、水道、電気等ライフライン	困っていること	<ul style="list-style-type: none"> ・電車が止まるとのことで早めに動いていたが止まらなかった。振り回されて疲れた。 2 ・計画停電があり、思うように電気が使用できない。 ・ホーム居室で、水道管の破裂や給湯機が壊れた、翌日工事で復旧。 	
	行っている対応	<table border="1"> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・早めに食事をつくる ・トイレ用水の確保 ・お風呂に水を張る 3 ・飲料水の用意 2 ・携帯ラジオの用意 2 ・携帯電燈の用意 2 ・IHでなくて良かった。 ・多めに着込む </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・なるべく同じ階で過ごす ・前もってやれることは済みます。 ・節電節水の声かけ。 ・停電予定時間前に調理を終わらせる。 </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> ・早めに食事をつくる ・トイレ用水の確保 ・お風呂に水を張る 3 ・飲料水の用意 2 ・携帯ラジオの用意 2 ・携帯電燈の用意 2 ・IHでなくて良かった。 ・多めに着込む
<ul style="list-style-type: none"> ・早めに食事をつくる ・トイレ用水の確保 ・お風呂に水を張る 3 ・飲料水の用意 2 ・携帯ラジオの用意 2 ・携帯電燈の用意 2 ・IHでなくて良かった。 ・多めに着込む 	<ul style="list-style-type: none"> ・なるべく同じ階で過ごす ・前もってやれることは済みます。 ・節電節水の声かけ。 ・停電予定時間前に調理を終わらせる。 		
5 その他 お気づきのことを何でもどうぞ	困っていること	<ul style="list-style-type: none"> ・停電になること ・非常用の物品が不十分 ・作業所を明日やる・やらない、弁当を持っていく・行かない、で夜半まで振り回された。 ・夜間の避難ができる心配 ・公共施設の休業、イベント中止で、利用者の行く場所が限られている。 ・災害状況を把握できない人がいる。 ・トイレトペーパーが残り少なく困っている。 2 気にする本人がいる。 ・利用者の仕事が休みの時買い物などで世話人が外出時、一人にさせることへの不安。またその時緊急連絡・緊急事態になったら困る。 ・緊急時の保存食を常備しておかなくてはいけないと思っている。 ・病院外来日の変更や薬の予備などしておいた方がいいのか気になる ・風呂に水をためておいたら、いつの間にか抜かれていた。 	
	行っている対応	<ul style="list-style-type: none"> ・防災用品を用意していた ・保存食を用意していた ・ホームでイベントに代わるものを用意したりして対応。 ・色々な店をさがし歩いている。 ・支援員・代替え等利用し一人時間が短くなるようにしている。 ・必要以上に敏感になりすぎないように、明るくふるまっている。 ・利用者の話を聞いたりして心の安定に努めている 	

グループホーム等世話人情報交換会主催

「災害時や防火の時に備えての講座と実地訓練会」

～杉並消防署の全面協力で開催します～

- 1、開催日時 H23年 7月27日 (水) 10:00～12:00
- 2、開催場所 杉並消防署内 杉並区阿佐ヶ谷南 3-4-3
地下鉄 丸の内線 「南阿佐ヶ谷駅」徒歩5分
JR 中央線 「阿佐ヶ谷駅」徒歩10分
- 3、参加費 無料
- 4、講演内容 講座 地震や震災時の備えと対応、近隣の協力を得る取り組みについて
実地訓練 消火訓練、通報訓練、入居者の避難訓練の仕方
*グループホームでの避難のビデオも用意していただけます。
- 5、対象者 杉並区内のグループホームの世話人、生活支援員
- 6、その他 当日は訓練に参加できるように軽装で参加下さい。
会場内は、節電中です。
- 7、申し込み 出席いただけるグループホームとお名前を、下記に記載していただき、FAXにて支援センターすだちへ6月30日(木)までに申し込みをお願い致します。



杉並消防署地図

<申し込み方法> FAXをお願いします。

住所：杉並区今川2-14-12

すだちの里すぎなみ内

TEL：03-5310-3362

FAX：03 5310-3561



7月27日(水) <グループホーム等世話人情報交換会、防災講座申し込み>

<GH名、連絡先>

GH名：

連絡先：

<参加者氏名>